

121008 オオスズメバチ

「オオスズメバチ」の巣を入手しました。

歩道沿いの草地の地中に営巣しており、歩行者の安全確保のため、駆除されたものです。

「オオスズメバチ」が好む営巣場所は、**地中**や**樹洞**などの閉鎖的な場所で、巣盤数は4～10層、幼虫が羽化するまでの期間を過ごす個室である「**育房**」の数は、3,000～6,000房にもなります。

越冬した「**新女王バチ**」は、5月中旬頃から巣づくりを開始、働きバチは7月頃から羽化し始め、9月～10月には100～500頭程度まで増えます。

ちなみに、働きバチの寿命は長くても一ヶ月程度だそうです。

オスバチは9月～11月に、**新女王バチ**は10月～11月に羽化します。

9月頃になると巣の規模が最大になり、しかも**オス**や**新女王**になる幼虫を育てるために大量の餌が必要となる一方、秋が深まってくると獲物の捕獲が困難になってきますので、大きくなった巣を維持するために個体の興奮度も高まってくるのでしょうか、刺傷事故も増えるようです。

地中に巣を作っている場合、近くを人が歩くことでその震動が巣に伝わり、興奮した働きバチが防衛のために攻撃してくる、ということも想定されますので、十分な注意が必要でしょう。

◆写真①： 巣盤は3層

◇歩道沿いの地中に作られていた巣です。

◇巣盤は3層と、比較的小さな巣でした。山中では獲物を捕獲しやすい開けた環境も少ないので、巣を拡大するだけの余力が無かったのでしょうか？

◆写真②： 巣盤の天井部の外側

◇育房室の六角形の断面形状が、そのまま外側にも出ています。

◆写真③・④： 育房室の中では…

◇上部の2匹の幼虫（イモムシ状）は死んでおり、黒ずんでいます。（駆除後3日経過のため）

◇閉じた育房室のふたを除去すると、中には成長段階の異なる「**さなぎ**」がいました。

◇顔をよく見ると、触覚がまだ垂れ下がった状態ですので、“いないいないばあ～”をしているみたいですね…

◆写真⑤～⑧： 幼虫～さなぎ

◇育房室から取り出した幼虫やサナギを、右下のイモムシから、左上の羽化直前個体まで、成長段階にそって並べてみました。体長は40mm弱くらいでしょうか。

◆写真⑨： 成虫

◇既に絶命した個体ですが、尾端から鋭く「**毒針**」を出していますね…

















